For CAREMANAGER

ケアマネ通信

2024 9月号 vol.17

ケアマネジャーのお仕事サポート

テーマ

「適切なケアマネジメント手法」実践研修での「あるある」

実践研修は、自分の事例を4ヶ月間、同じメンバーでグループワーク、現場実践を繰り返し行う研修方法です。図を参照。

図 【実践研修の特徴】

- 4カ月間の実践を通じてケアマネジャーの意識・行動の変化を促す。
- グループワークを中心としたプログラムであり、参加者同士で助言しあうことで、地域での知見の蓄積につながる。

実践セミナー

地域関係者への本手法の周知および参加者募集

第1回研修

- 基本ケアの内容と捉え方、事例の掘り下げ方の講義・演習
- 現場実践で着目する項目の絞り込み

第2回研修

- 現場実践①の結果と課題の共有
- グループワークを通じた具体的な実践方法の検討・助言

第3回研修

- 現場実践②の結果と課題の共有
- グループワークを通じた具体的な実践方法の検討・助言

第4回研修

- 現場実践③の結果と課題の共有
- 取り組みの振り返りと総括
- 今後の実践宣言

準備期間 → 1か月目 → 2か月目 → 3か月目

事前課題

- 動画視聴
- 事例選定
- 自己点検

現場実践①

- 追加情報収集と課題の再確認
- （必要に応じて）ケアプラン、支援内容の見直し

現場実践②

- 追加情報収集と課題の再確認
- （必要に応じて）ケアプラン、支援内容の見直し

現場実践③

- 追加情報収集と課題の再確認
- （必要に応じて）ケアプラン、支援内容の見直し

図 「適切なケアマネジメント手法」実践研修の流れ

「適切なケアマネジメント手法」実践研修は、**各自の事例に関する追加の情報収集や支援の内容を再検討する現場実践と、実践での気づきや悩みを他の参加者にも共有するグループワーク**で構成されます。

自己点検

事例のプランについて、視点の抜け漏れなどを自己点検する

座学（講義）

事例の深掘りの具体的な方法を学ぶ

→

現場実践

各自の事例について、追加の情報収集や支援内容を再検討

複数回繰り返す

グループワーク

現場での実践で気づきや悩みを他のグループの参加者に共有

⇓

次回の実践に向けてグループで相談

この実践研修の中で必ず出る質問を「水分」摂取を例に上げて一緒に見ていきましょう。

受講者から必ず受ける質問があります。なぜ同じ項目があるのでしょうか。

適切なケアマネジメント手法<基本ケア>

8.水分摂取状況の把握の支援
21.水分の摂取の支援

これは、「適ケア」手法を実践するとき「基本方針」から考えねばなりません。

8番は、基本方針Ⅰ

尊厳を重視した意思決定支援

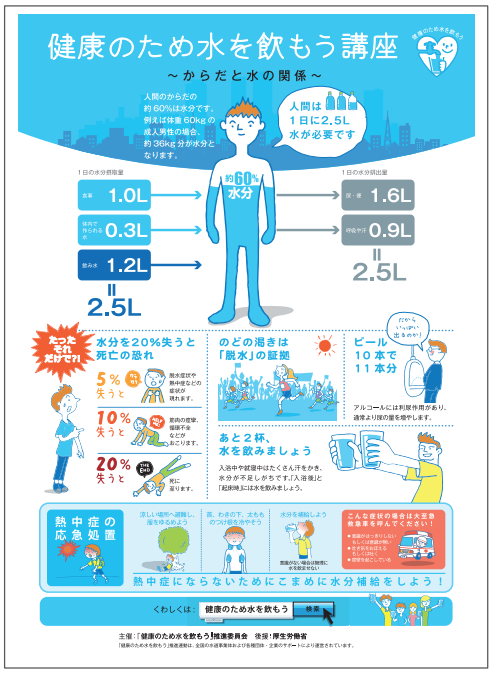
→大項目Ⅰ-1、現在の全体像の把握と生活上の将来予測、備え
→中項目のⅠ-1-2、現在の生活の全体像の把握
→想定される支援内容として
「水分摂取状況の把握の支援」があるのです。

21番は、基本方針Ⅱ

これまでの生活の尊重と継続の支援

→大項目Ⅱ-1、予測に基づく心身機能の維持・向上、フレイルや重度化の予防の支援
→中項目のⅡ-1-1、水分と栄養を摂ることの支援
→想定される支援内容として
「水分の摂取の支援」があるのです。

同じ「水分」についての項目でも中身が違いますね。



実践研修2回目を開催すると水分量を確認したことがない。

正確に何ミリリットル摂取しているかわからないと受講者は言います。また、コップ1杯2杯と答える方もいます。

この1杯って何ミリリットル?

必要なことは〇〇ミリリットル摂取しているかを知りたいのです。

さあ次回の実践研修までに現場で計量カップを持参して量りましょう。訪問介護員、通所サービスの担当者にも何ミリリットル摂取しているかを確認しましょう。
これが8番に該当しますね。

調べたら、500ミリリットルでした。

では、あなたは1日摂取必要量である水2，2リットル（食事、飲料水）どのように摂取させますか？
あと1.7リットル足りないのです。**これが21番**に該当します。
これについて職場の中でのディスカッションをお願いします。

ヒントは、次号へ

執筆者
木村隆次 きむらりゅうじ

薬剤師　介護支援専門員　介護支援専門員指導者一期生

医療・介護連携協働をライフワークに活動中。大学卒業後、製薬会社のMRとして勤務した後、青森市内で薬局を開局。薬剤師として居宅訪問をしていた際、福祉用具と住宅改修に興味をもち没頭。介護支援専門員指導者の一期生。2000年4月から13年間日本薬剤師会常務理事、2010年から2022年まで青森県薬剤師会会長を務めた。2005年11月から日本介護支援専門員協会会長（初代）として厚生労働大臣の諮問機関で介護報酬や介護保険制度を議論する分科会・部会の委員を歴任。現在は、青森県介護支援専門員協会会長として自立支援型ケアマネジメントの普及のため後進へ情報発信し育成に努めている。